



'99 統計情報 第1号

川崎市の繁華街

平成9年商業統計調査結果

川 崎 市

平成 9 年

川崎市の繁華街

平成 11 年(1999 年)7月発行

発行 川 崎 市
編集 総合企画局都市政策部統計情報課
川崎市川崎区宮本町 1 番地
TEL 044(200)2111 (大代表)

はじめに

商業統計調査（通商産業省所管，指定統計第23号）は，商店の分布状況や販売活動の実態などを明らかにすることを目的に，昭和27年から実施されています。

この報告書は，平成9年6月1日現在で実施された平成9年調査の川崎市分の結果のうち，商店が特に密集している地域を繁華街として設定し，その地域内の小売業商店について独自に集計したものです。

繁華街における商業活動の結果は，転換期にあるといわれる商業活動を理解する上での大きな一助となるとともに，地域経済の状況の一端をあらわす重要な基礎資料となります。

この報告書を，「統計川崎第200号」の特集『川崎市の商業』と併せ，各種行政施策並びに商店経営及び経済分析等の基礎資料として，また，本市商業の更なる発展のために御利用いただければ幸いです。

なお，この調査の実施にあたり格別の御協力をいただきました商店の皆様をはじめ，関係諸団体各位並びに調査に従事していただきました統計調査員の皆様に深く感謝申し上げますとともに，今後なお一層の御指導と御協力を賜りますようお願いいたします。

平成11年（1999年）7月

総合企画局長 君嶋武胤

利用にあたって

1 主な用語の説明

(1) 商店

商店とは、一定の場所に固定的な設備を有し、原則として商品を仕入れて販売する事業所をいいます。なお、同一企業内の本支店間又は支店相互間で帳簿上商品の振替を行った場合も、商品の仕入又は販売となります。

(2) 法人

株式会社、有限会社、合資会社、合名会社、法人格のある組合及びその他の法人をいいます。

(3) 小売業

小売業とは、主として次の業務を行う事業所をいいます。

ア 個人用（個人経営の農林漁家への販売を含む）又は家庭用消費のために商品を購入し、販売する事業所

イ 商品を小売し、かつ同種商品の修理を行う事業所

ウ 製造した商品をお店で一般消費者に販売するもの

エ 主として無店舗販売を行う事業所（訪問販売又は通信販売事業を行うための拠点となっている事業で、一般消費者に販売するもの）

(4) 従業者

平成9年6月1日現在で、主としてその商店の業務に従事している者をいい、個人事業主と無給家族従業者、会社・団体の有給役員、常時雇用従業者（平成9年4月、5月にそれぞれ18日以上雇用された臨時及び日雇の者を含む）が対象となります。

(5) 年間商品販売額

平成8年6月1日から平成9年5月31日までの1年間の販売額をいいます。

(6) 商品手持額

平成9年6月1日で商店が販売の目的で保有している手持商品の金額をいいます。

(7) 売場面積

平成9年6月1日現在で商店が商品を販売するために、実際に使用する延床面積をいいます。（牛乳小売業、自動車（新車・中古車）小売業、畳（製造・非製造）小売業、建具（製造・非製造）小売業、ガソリンスタンド、新聞小売業及び無店舗販売商店は除く。）

2 繁華街の定義

繁華街とは、おおむね60店舗以上の小売店が連続して街区を形成している小売機能中心の集積地域のうち、次のいずれかに該当するものをいいます。なお、60店舗未満であっても今後の発展が見込まれる地域や、従前設定した繁華街で時系列上必要と認められる地域も繁華街としています。

- (1) 都市の中心商店街（店舗が面上に展開しており、買い物客の大半がその商店街以外から来ているようなものに限る。）については、中核の街区からおおむね700メートル以内にある街区まで機能的に一体とみられる地域。

- (2) 店舗の集団が1つの直線，L字型等の単純なものについては，街路の総延長が1,200メートル以下で機能的に一体になっているとみられる地域。
- (3) 上記(1)，(2)以外の店舗の集団で，その形状がT字型，十字型であるようなものについては，その形状に応じて，機能的に一体となっていると見られる地域。

3 繁華街の特性分類について

繁華街の地域特性，商品の販売状況及び立地条件によって，次のとおり地域特性別，販売商品特性別及び立地特性別に分類しました。

(1) 地域特性別分類

小売年間商品販売額の市区別構成比を人口の市区別構成比で除した購買力及び最寄駅の乗車人員などにより，次のとおり分類しました。

区 分	定 義	地域特性別分類記号
A 型	相当広範囲から購買客を吸収している地域	A
B 型	近隣都市から購買客を吸収している地域	B
C 型	主に市区内在住の購買客を対象としている地域	C
D 型	主に後背の住宅地区の購買客を対象としている地域	D

(2) 立地特性別分類

繁華街が立地する周辺の状況及び年間商品販売額により，次のとおり分類しました。

区 分	定 義	立地特性別分類番号
駅ビル型	大規模駅の周辺あるいは駅に隣接して建てられている商業(テナント)ビルを1つの繁華街とする型	1
地下街型	大規模駅の周辺あるいは駅に隣接して形成された地下街を1つの繁華街とする型	2
駅周辺大規模型	大規模駅の周辺あるいはターミナル駅の周辺に形成された繁華街で，年間商品販売額がおおむね500億円を超える地域	3
駅周辺中規模型	駅周辺に形成された繁華街で，年間商品販売額がおおむね200億円を超える地域	4
駅周辺小規模型	駅周辺に形成された繁華街で，上記の大規模型・中規模型どちらの型にもあてはまらない地域	5
ロードサイド型	幹線道路あるいは主要地方道沿いに形成された繁華街	6
地元商店街型	従来からある地元の商店街が発展・拡大した結果形成された繁華街	7
特 殊 型	昔からの歴史と伝統があり，老舗的な商店街となっている繁華街及び神社・仏閣・温泉地の周辺等，特殊な条件下で形成された繁華街	8

(3) 販売商品特性格別分類

小売年間商品販売額に占める最寄品販売額割合により、次のとおり分類しました。

なお、例外的な商品分類である「百貨店」年間商品販売額が、繁華街の小売年間商品販売額に占める割合が著しく高い場合については、一般商品分類との整合性を図るため補正して分類した繁華街もあります。

区 分	定 義	販売商品特性格別分類番号
最 寄 品 中 心 街	最寄品販売額割合 55%以上	1
最寄品・買回品混合街	最寄品販売額割合 40%以上 55%未満	2
買 回 品 中 心 街	最寄品販売額割合 20%以上 40%未満	3
買 回 品 ・ 専 門 品 街	最寄品販売額割合 20%未満	4

注) 最寄品とは、小売商品分類の「56 飲食料品」「582 金物・荒物」「591 医薬品・化粧品」「593 燃料」及び「594 書籍・文房具」をいい、その他のものを買回品といいます。

4 報告書中の記号及び注記

(1) 統計表中の記号は次のとおり取り扱いました。

「X」……………秘匿（商店数が2以下の場合は、秘密保護のため「X」で表示し、また、商店数が3以上の場合でも他との関連により「X」で秘匿した箇所があります。）

「-」……………該当数字なし

「0」又は「0.0」……皆無又は単位未満

「 」……………減少（マイナス）

(2) 従前設定した繁華街地域の一部見直しを行っていますが、時系列比較上は考慮していません。

(3) この数値は神奈川県承認を得て本市が集計した結果及び「平成9年神奈川県商業統計調査結果報告書」によるものであり、通商産業省が公表する数値と異なる場合があります。また、単位未満を四捨五入したため、総数と内訳の計が一致しない場合があります。

目 次

川崎市の商業の概要

1 概 況	1
(1) 商店数	1
(2) 従業者数	1
(3) 年間商品販売額	1
表 1 商店数，従業者数及び年間商品販売額	

川崎市の繁華街の概要

1 概 況	2
図 1 繁華街と繁華街以外の構成比	
表 2 小売業と繁華街の商店数，従業者数，年間商品販売額及び売場面積	
2 繁華街の状況	3
(1) 商店数	3
表 3 繁華街の地域別商店数	
(2) 業種別の商店数	4
表 4 繁華街の産業分類別商店数	
(3) 従業者数	5
表 5 繁華街の地域別従業者数	
(4) 年間商品販売額	6
表 6 繁華街の地域別年間商品販売額	
(5) 売場面積	7
表 7 繁華街の地域別売場面積	
(6) 繁華街の地域別販売効率等	8
表 8 繁華街の地域別販売効率等	

統 計 表	1 1
繁華街別商店数，従業者数，年間商品販売額，商品手持額及び売場面積	

川崎市の商業の概要

1 概況

平成9年商業統計調査（卸売・小売業）の結果によると、川崎市の商店数は10,929店、従業者数は73,630人、年間商品販売額は2兆4871億円となり、それぞれ前回調査（平成6年7月1日現在）から減少しています。また、減少率は、全国及び神奈川県をそれぞれ上回る結果となりました。

(1) 商店数

商店数は10,929店で、前回調査と比べて963店（8.1%）減少しました。

業態別にみると、卸売業は1,825店で、前回調査と比べ252店（12.1%）の減少となりました。また、小売業の商店数は9,104店と711店（7.2%）減少しています。

なお、全国では6.1%の減少、神奈川県では5.0%の減少でした。

(2) 従業者数

従業者数は、73,630人で、前回調査と比べて3,628人（4.7%）減少しました。従業者数が減少したのは、昭和27年に調査を開始して以来初めてのことです。これを業態別に見ると、卸売業は3,448人（16.9%）減少の16,918人、小売業が180人（0.3%）減少の56,712人となっています。

なお、全国では3.8%の減少、神奈川県では2.4%の減少でした。

(3) 年間商品販売額

年間商品販売額は、2兆4871億円で、前回調査と比べて1456億円（5.5%）の減少となりました。業態別では、卸売業が1兆3852億円で、前回調査と比べて900億円（6.1%）の減少となりました。また、小売業は557億円（4.8%）減少の1兆1018億円となり、調査開始以来初めて、減少しました。

なお、全国では4.6%の減少、神奈川県では0.9%の減少でした。

表1 商店数、従業者数及び年間商品販売額

区 分		平成6年		平成9年		増減率(%)
		店	構成比(%)	店	構成比(%)	
商店数	総 数	11,892	100.0	10,929	100.0	8.1
	卸 売 業	2,077	17.5	1,825	16.7	12.1
	小 売 業	9,815	82.5	9,104	83.3	7.2
従業者数	総 数	77,258	100.0	73,630	100.0	4.7
	卸 売 業	20,366	26.4	16,918	23.0	16.9
	小 売 業	56,892	73.6	56,712	77.0	0.3
年間商品販売額	総 数	2,632,705	100.0	2,487,059	100.0	5.5
	卸 売 業	1,475,214	56.0	1,385,245	55.7	6.1
	小 売 業	1,157,491	44.0	1,101,814	44.3	4.8

川崎市の繁華街の概要

1 概況

この繁華街集計は、平成9年6月1日現在で実施された平成9年商業統計調査の結果のうち、「繁華街」として設定した、商店が特に密集している地域の小売業商店について、再集計したものです。

今回設定した繁華街の数は、31地域で、前回と同数です。区別にみると、最も多いのが川崎区の12地域で、逆に、最も少ないのは高津区と宮前区の1地域です。

小売業に占める繁華街の割合(占有率)は、商店数36.2%、従業者数38.7%、年間商品販売額43.2%、売場面積51.7%で、いずれも前回調査とほぼ同じ割合となっています。区別の傾向としては、川崎区では、どの項目も占有率が高く、商業活動が繁華街に集中している様子が見られ、逆に、宮前区は低い占有率にとどまり、繁華街の果たす役割が比較的小さくなっています。

図1 繁華街と繁華街以外の構成比

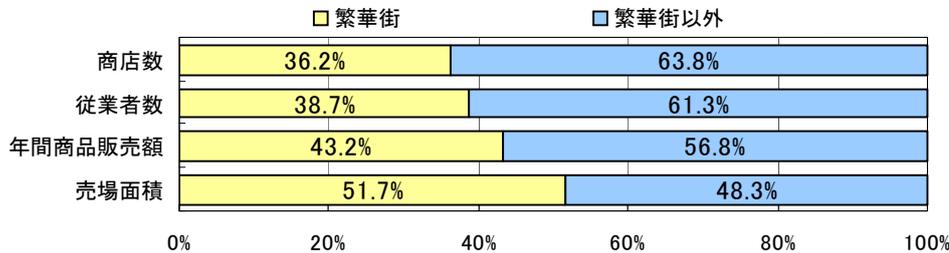


表2 商店数，従業者数，年間商品販売額及び売場面積

	平成6年			平成9年			
	小売業	繁華街	占有率(%)	小売業	繁華街	占有率(%)	増減率(%)
商店数	店 9,815	店 3,516	35.8	店 9,104	店 3,300	36.2	6.1
川崎区	2,832	1,481	52.3	2,561	1,358	53.0	8.3
幸区	1,322	393	29.7	1,178	354	30.1	9.9
中原区	1,857	767	41.3	1,766	770	43.6	0.4
高津区	1,140	187	16.4	1,064	148	13.9	20.9
宮前区	829	50	6.0	779	50	6.4	0.0
多摩区	1,211	409	33.8	1,164	406	34.9	0.7
麻生区	624	229	36.7	592	214	36.1	6.6
従業者数	人 56,892	人 22,093	38.8	人 56,712	人 21,972	38.7	0.5
川崎区	15,739	9,052	57.5	14,706	8,516	57.9	5.9
幸区	5,965	1,841	30.9	5,928	1,862	31.4	1.1
中原区	9,428	4,378	46.4	9,803	4,676	47.7	6.8
高津区	7,036	1,737	24.7	7,238	1,591	22.0	8.4
宮前区	6,209	426	6.9	6,299	486	7.7	14.1
多摩区	7,713	2,533	32.8	7,464	2,536	34.0	0.1
麻生区	4,802	2,126	44.3	5,274	2,305	43.7	8.4
年間商品販売額	百万円 1,157,491	百万円 511,446	44.2	百万円 1,101,814	百万円 475,499	43.2	7.0
川崎区	353,868	229,845	65.0	316,939	202,013	63.7	12.1
幸区	111,989	39,668	35.4	103,378	35,557	34.4	10.4
中原区	169,373	85,751	50.6	165,547	84,149	50.8	1.9
高津区	143,074	51,256	35.8	148,053	50,537	34.1	1.4
宮前区	144,681	17,306	12.0	148,381	17,261	11.6	0.3
多摩区	143,595	45,289	31.5	128,117	42,327	33.0	6.5
麻生区	90,911	42,332	46.6	91,400	43,654	47.8	3.1
売場面積	m ² 747,665	m ² 384,431	51.4	m ² 737,100	m ² 381,402	51.7	0.8
川崎区	232,040	176,910	76.2	225,991	170,192	75.3	3.8
幸区	66,738	26,717	40.0	63,034	25,229	40.0	5.6
中原区	124,407	64,356	51.7	124,952	68,087	54.5	5.8
高津区	94,830	35,125	37.0	88,690	35,165	39.6	0.1
宮前区	85,999	13,317	15.5	90,712	13,685	15.1	2.8
多摩区	82,438	34,527	41.9	82,509	34,531	41.9	0.0
麻生区	61,213	33,479	54.7	61,212	34,513	56.4	3.1

2 繁華街の状況

(1) 商店数

繁華街の商店数は3,300店で、前回調査(平成6年7月1日現在)と比べて216店(6.1%)の減少となりました。減少率は、小売業全体の値(7.2%)より1%以上下回っています。

区別にみると、川崎区が1,358店と最も多く、続いて中原区が770店、多摩区が406店、幸区が354店、麻生区が214店、高津区が148店、宮前区が50店となっています。

次に、区別の増減をみると、中原区が3店(0.4%)の増加、宮前区が同数、となった他は、全ての区で減少となりました。特に高津区では溝口再開発事業の最中であったため、20.9%減少という大きな減少率を示しています。

繁華街別では、浜町が10.4%の増加となるなど7つの地域で増加となりました。前回新たに設定された新百合丘も、4.0%の増加となっています。逆に減少を見せたのは23地域で、そのうち2桁の減少率となった地域は8地域となっています。

表3 繁華街の地域別商店数

区 別	繁 華 街 名	商 店 数			
		6 年	9 年	増 減	増減率
	総 計	店 3,516	店 3,300	店 216	% 6.1
川 崎 区	区 計	1,481	1,358	123	8.3
	1 東田町	77	70	7	9.1
	2 川崎駅前本町	210	176	34	16.2
	3 川崎駅ビル(BE)	197	185	12	6.1
	4 小川町	56	54	2	3.6
	5 桜本	98	91	7	7.1
	6 川崎大師	114	106	8	7.0
	7 東門前・出来野	173	159	14	8.1
	8 浜町	48	53	5	10.4
	9 大島本通り	92	95	3	3.3
	10 浅田・小田	208	186	22	10.6
	11 川崎地下街(アゼリア)	106	98	8	7.5
	12 京町	102	85	17	16.7
幸 区	区 計	393	354	39	9.9
	13 南河原	103	101	2	1.9
	14 鹿島田	107	97	10	9.3
	15 夢見ヶ崎	107	94	13	12.1
	16 塚越	76	62	14	18.4
中 原 区	区 計	767	770	3	0.4
	17 新丸子	149	151	2	1.3
	18 武蔵小杉	108	106	2	1.9
	19 木月	97	92	5	5.2
	20 元住吉	115	122	7	6.1
	21 武蔵新城	217	224	7	3.2
	22 平間	81	75	6	7.4
高 津 区	23 武蔵溝ノ口	187	148	39	20.9
宮 前 区	24 鷺沼	50	50	0	0.0
多 摩 区	区 計	409	406	3	0.7
	25 登戸	69	67	2	2.9
	26 向ヶ丘遊園	178	177	1	0.6
	27 稲田堤	84	83	1	1.2
	28 生田	78	79	1	1.3
麻 生 区	区 計	229	214	15	6.6
	29 百合丘	69	57	12	17.4
	30 柿生	59	52	7	11.9
	31 新百合丘	101	105	4	4.0

(2) 業種別の商店数

業種（産業中分類）別では，商店数が最も多いのが「飲食料品」で1,161店（構成比35.2%），次が「その他の小売業」の986店（同29.9%）となっており，以下，「織物・衣服・身の回り品」848店（同25.7%），「家具・じゅう器・家庭用機械器具」259店（同7.8%），「自動車・自転車」36店（同1.1%），「各種商品」10店（同0.3%）と続いています。

前回調査との増減をみると，「織物・衣服・身の回り品」が104店（10.9%）の減少となったのをはじめ，全ての業種で減少となりました。産業小分類別では，全32業種中，4業種で増加，3業種で同数，となった他は減少となりました。

全小売店に占める繁華街の割合（占有率）は，「織物・衣服・身の回り品」63.0%，「各種商品」55.6%という高い割合のものと，「自動車・自転車」8.1%，「飲食料品」30.7%，「家具・じゅう器・家庭用機械器具」32.6%，「その他の小売業」36.3%という低い割合のものに二分化されています。産業小分類別では，「自動車」が2.8%，「燃料」が7.8%と1桁の占有率にとどまり，両者に分類される商店が，繁華街の地域外に所在している様子が見られます。

表4 繁華街の産業分類別商店数

区 分	平成6年	平成9年			
	繁華街	市計	繁華街	占有率	増減率
総 計	店 3,516	店 9,104	店 3,300	% 36.2	% 6.1
5.4 各 種 商 品	11	18	10	55.6	9.1
541 百 貨 店	10	14	10	71.4	-
549 そ の 他 の 各 種 商 品	1	4	-	-	100.0
5.5 織物・衣服・身の回り品	952	1,347	848	63.0	10.9
551 呉 服 ・ 服 地 ・ 寝 具	95	196	84	42.9	11.6
552 男 子 服	131	218	116	53.2	11.5
553 婦 人 ・ 子 供 服	451	584	423	72.4	6.2
554 靴 ・ 履 物	106	140	91	65.0	14.2
559 そ の 他 の 織 物 ・ 衣 服 ・ 身 の 回 り 品	169	209	134	64.1	20.7
5.6 飲 食 料 品	1,214	3,780	1,161	30.7	4.4
561 各 種 食 料 品	70	251	57	22.7	18.6
562 酒	101	481	96	20.0	5.0
563 食 肉	88	188	72	38.3	18.2
564 鮮 魚 物	63	173	59	34.1	6.3
565 乾 物	26	40	23	57.5	11.5
566 野 菜 ・ 果 実	127	347	123	35.4	3.1
567 菓 子 ・ パ ン	300	674	281	41.7	6.3
568 米 穀 類	62	236	57	24.2	8.1
569 そ の 他 の 飲 食 料 品	377	1,390	393	28.3	4.2
5.7 自 動 車 ・ 自 転 車	38	446	36	8.1	5.3
571 自 動 車	11	352	10	2.8	9.1
572 自 転 車	27	94	26	27.7	3.7
5.8 家具・じゅう器・家庭用機械器具	273	795	259	32.6	5.1
581 家 具 ・ 建 具 ・ 畳	62	241	56	23.2	9.7
582 金 物 ・ 荒 物	63	154	67	43.5	6.3
583 陶 磁 器 ・ ガ ラ ス 器	25	42	20	47.6	20.0
584 家 庭 用 機 械 器 具	122	356	114	32.0	6.6
589 そ の 他 の じ ゅ う 器	1	2	2	100.0	100.0
5.9 そ の 他 の 小 売 業	1,028	2,718	986	36.3	4.1
591 医 薬 品 ・ 化 粧 品	233	579	233	40.2	-
592 農 耕 用 品	10	36	11	30.6	10.0
593 燃 料	31	307	24	7.8	22.6
594 書 籍 ・ 文 房 具	191	515	185	35.9	3.1
595 スポーツ用品・がん具・娯楽用品・楽器	125	238	114	47.9	8.8
596 写 真 機 ・ 写 真 材 料	44	76	39	51.3	11.4
597 時 計 ・ 眼 鏡 ・ 光 学 機 械	92	140	92	65.7	-
598 中 古 品	11	34	9	26.5	18.2
599 他 に 分 類 さ れ な い 小 売 業	291	793	279	35.2	4.1

(3) 従業者数

繁華街の従業者数は21,972人で、前回調査と比べて121人（0.5%）と、わずかながら減少となりました。

区別にみると、川崎区が536人（5.9%）減少して8,516人、高津区が146人（8.4%）減少して1,591人となりましたが、その他の5区では増加しています。

次に繁華街別にみると、最も人数が多いのが川崎駅前本町の1,466人、続いて武蔵新城が1,437人となっており、繁華街1地域当たりの平均709人を大きく上回っています。また、従業者数が増加した地域は14地域、減少した地域は17地域です。

繁華街別の増減率では、京町が29.9%減少、川崎駅前本町が22.7%減少と、高い減少率となっているのが目立ちます。特に、川崎駅前本町は、実数で最も多い430人減少しています。一方、桜本が46.7%、浜町が28.7%、新百合丘が23.5%増加するなど、9地域で2桁台という高い増加率を示しています。

表5 繁華街の地域別従業者数

区 別	繁 華 街 名	従 業 者 数			
		6 年	9 年	増 減	増減率
	総 計	人 22,093	人 21,972	人 121	% 0.5
川 崎 区	区 計	9,052	8,516	536	5.9
	1 東田町	441	429	12	2.7
	2 川崎駅前本町	1,896	1,466	430	22.7
	3 川崎駅ビル（BE）	1,179	1,102	77	6.5
	4 小川町	1,321	1,313	8	0.6
	5 桜本	368	540	172	46.7
	6 川崎大師	619	632	13	2.1
	7 東門前・出来野	685	688	3	0.4
	8 浜町	157	202	45	28.7
	9 大島本通り	400	478	78	19.5
	10 浅田・小田	766	693	73	9.5
	11 川崎地下街（アゼリア）	725	626	99	13.7
	12 京町	495	347	148	29.9
幸 区	区 計	1,841	1,862	21	1.1
	13 南河原	486	515	29	6.0
	14 鹿島田	616	714	98	15.9
	15 夢見ヶ崎	483	415	68	14.1
	16 塚越	256	218	38	14.8
中 原 区	区 計	4,378	4,676	298	6.8
	17 新丸子	776	654	122	15.7
	18 武蔵小杉	874	1,008	134	15.3
	19 木月	479	470	9	1.9
	20 元住吉	693	779	86	12.4
	21 武蔵新城	1,222	1,437	215	17.6
	22 平間	334	328	6	1.8
高 津 区	23 武蔵溝ノ口	1,737	1,591	146	8.4
宮 前 区	24 鷺沼	426	486	60	14.1
多 摩 区	区 計	2,533	2,536	3	0.1
	25 登戸	401	422	21	5.2
	26 向ヶ丘遊園	1,124	1,154	30	2.7
	27 稲田堤	559	537	22	3.9
	28 生田	449	423	26	5.8
麻 生 区	区 計	2,126	2,305	179	8.4
	29 百合丘	626	578	48	7.7
	30 柿生	451	431	20	4.4
	31 新百合丘	1,049	1,296	247	23.5

(4) 年間商品販売額

繁華街の年間商品販売額は4,755億円で、前回調査と比べて359億円(7.0%)の減少となりました。

区別にみると、麻生区で13億円(3.1%)増加した他は、全ての区で減少しました。特に、幸区、高津区、宮前区、多摩区では、区内の全ての繁華街地域で減少となっています。

繁華街別にみると、最も額が多いのは、小川町の647億円。次が武蔵溝ノ口の505億円です。年間商品販売額が100億円以上の繁華街は16地域となっており、全体のほぼ半数を占めています。

繁華街別の増減では、増加となった地域が7地域、減少となった地域が24地域と、減少した地域の方が、かなり多くなっています。増減率では、浜町が28.9%、新百合丘が23.3%と大幅な増加を見せましたが、川崎駅前本町が28.9%減少、百合丘が26.7%減少と、9地域で2桁台の減少率となりました。

表6 繁華街の地域別年間商品販売額

区 別	繁 華 街 名	年 間 商 品 販 売 額			
		6 年	9 年	増 減	増 減 率
総 計		万円 51,144,567	万円 47,549,910	万円 3,594,657	% 7.0
川 崎 区	区 計	22,984,512	20,201,346	2,783,166	12.1
	1 東田町	934,848	854,256	80,592	8.6
	2 川崎駅前本町	5,371,786	3,817,502	1,554,284	28.9
	3 川崎駅ビル(BE)	2,368,816	2,134,280	234,536	9.9
	4 小川町	7,180,302	6,468,135	712,167	9.9
	5 桜本	645,739	548,028	97,711	15.1
	6 川崎大師	983,228	1,002,962	19,734	2.0
	7 東門前・出来野	1,201,447	1,188,052	13,395	1.1
	8 浜町	236,622	304,964	68,342	28.9
	9 大島本通り	665,466	718,877	53,411	8.0
	10 浅田・小田	1,230,567	1,134,618	95,949	7.8
	11 川崎地下街(アゼリア)	1,583,596	1,414,469	169,127	10.7
12 京町	582,095	615,203	33,108	5.7	
幸 区	区 計	3,966,755	3,555,691	411,064	10.4
	13 南河原	646,203	573,527	72,676	11.2
	14 鹿島田	2,187,182	2,031,830	155,352	7.1
	15 夢見ヶ崎	756,998	616,554	140,444	18.6
中 原 区	16 塚越	376,372	333,780	42,592	11.3
	区 計	8,575,065	8,414,935	160,130	1.9
	17 新丸子	1,004,728	1,005,299	571	0.1
	18 武蔵小杉	2,286,678	2,261,374	25,304	1.1
	19 木月	842,906	725,584	117,322	13.9
	20 元住吉	1,384,238	1,376,936	7,302	0.5
高 津 区	21 武蔵新城	2,491,980	2,518,728	26,748	1.1
	22 平間	564,535	527,014	37,521	6.6
宮 前 区	23 武蔵溝ノ口	5,125,561	5,053,747	71,814	1.4
多 摩 区	24 鷺沼	1,730,578	1,726,084	4,494	0.3
麻 生 区	区 計	4,528,874	4,232,664	296,210	6.5
	25 登戸	723,285	654,637	68,648	9.5
	26 向ヶ丘遊園	2,345,118	2,178,008	167,110	7.1
	27 稲田堤	845,825	788,104	57,721	6.8
	28 生田	614,646	611,915	2,731	0.4
麻 生 区	区 計	4,233,222	4,365,443	132,221	3.1
	29 百合丘	1,011,431	740,958	270,473	26.7
	30 柿生	926,299	793,144	133,155	14.4
	31 新百合丘	2,295,492	2,831,341	535,849	23.3

(5) 売場面積

繁華街の売場面積は 381,402 m²で、前回調査と比べて 3,029 m² (0.8%) と、わずかに減少しました。

区別では、川崎区で 6,718 m² (3.8%) 減少、幸区で 1,488 m² (5.6%) 減少しましたが、その他の 5 区では増加となっています。

繁華街別にみると、最も面積が広いのは小川町です。66,163 m²という広さは、繁華街全体に対する構成比で 17.3%、小売業全体に対する構成比でも 9.0%を占めています。第 2 位は、武蔵溝ノ口で 35,165 m²です。前回第 2 位の川崎駅前本町は 7,405 m²減少の 32,073 m²となり、第 3 位となりました。

繁華街別の増減をみると、増加となった地域が 14 地域、減少となった地域が 17 地域となっています。増加率では、東門前・出来野(24.2%)、浜町(20.6%)、新百合丘(14.1%)など 6 地域で 2 桁台の伸びを示しましたが、川崎駅前本町(18.8%)、夢見ヶ崎(16.1%)など 5 地域で 2 桁台の減少率となりました。

表7 繁華街の地域別売場面積

区 別	繁 華 街 名	売 場 面 積			
		6 年	9 年	増 減	増減率
	総 計	m ² 384,431	m ² 381,402	m ² 3,029	% 0.8
川 崎 区	区 計	176,910	170,192	6,718	3.8
	1 東田町	8,227	7,799	428	5.2
	2 川崎駅前本町	39,478	32,073	7,405	18.8
	3 川崎駅ビル(BE)	13,336	13,029	307	2.3
	4 小川町	65,545	66,163	618	0.9
	5 桜本	3,748	3,710	38	1.0
	6 川崎大師	5,976	6,461	485	8.1
	7 東門前・出来野	9,219	11,452	2,233	24.2
	8 浜町	2,101	2,534	433	20.6
	9 大島本通り	6,065	6,403	338	5.6
	10 浅田・小田	11,425	9,939	1,486	13.0
	11 川崎地下街(アゼリア)	7,266	6,374	892	12.3
	12 京町	4,524	4,255	269	5.9
幸 区	区 計	26,717	25,229	1,488	5.6
	13 南河原	5,302	5,886	584	11.0
	14 鹿島田	12,461	11,424	1,037	8.3
	15 夢見ヶ崎	5,603	4,700	903	16.1
	16 塚越	3,351	3,219	132	3.9
中 原 区	区 計	64,356	68,087	3,731	5.8
	17 新丸子	7,024	7,919	895	12.7
	18 武蔵小杉	15,933	17,424	1,491	9.4
	19 木月	7,332	6,960	372	5.1
	20 元住吉	9,815	10,977	1,162	11.8
	21 武蔵新城	19,861	20,681	820	4.1
	22 平間	4,391	4,126	265	6.0
高 津 区	23 武蔵溝ノ口	35,125	35,165	40	0.1
宮 前 区	24 鷺沼	13,317	13,685	368	2.8
多 摩 区	区 計	34,527	34,531	4	0.0
	25 登戸	6,328	6,004	324	5.1
	26 向ヶ丘遊園	16,384	17,165	781	4.8
	27 稲田堤	6,115	5,821	294	4.8
	28 生田	5,700	5,541	159	2.8
麻 生 区	区 計	33,479	34,513	1,034	3.1
	29 百合丘	7,549	6,785	764	10.1
	30 柿生	8,030	7,308	722	9.0
	31 新百合丘	17,900	20,420	2,520	14.1

(6) 繁華街の地域別販売効率等

ア 商店1店当たりの従業者数

商店1店当たりの従業者数は、前回調査と比べて0.4人増加し6.7人となりました。これは、小売業平均の6.2人を0.5人上回っています。

区別にみると、麻生区と高津区が10.8人と最も多く、以下、宮前区9.7人、川崎区6.3人、多摩区6.2人、幸区5.3人と続いています。

繁華街別では、小川町が24.3人と最も多くなっています。これは、極めて大規模な店舗を複数抱えていることによるものです。他には、新百合丘が12.3人、武蔵溝ノ口が10.8人、百合丘が10.1人と、2桁の従業者数となっています。

イ 商店1店当たりの売場面積

商店1店当たりの売場面積は118.7㎡となり、前回調査から6.9㎡の増加となりました。

区別にみると、宮前区が285.1㎡と最も広く、続いて、高津区239.2㎡、麻生区161.3㎡、川崎区128.4㎡、中原区91.0㎡、多摩区87.9㎡、幸区74.6㎡となっています。

繁華街別では、繁華街平均値を超える地域は9地域で、小売業平均値を下回るような地域も17地域にのぼっています。最も広いのは小川町の1248.4平方メートル、逆に、最も狭いのが桜本の43.6平方メートルです。

ウ 商店1店当たりの年間商品販売額

商店1店当たりの年間商品販売額は、14,409万円で、小売業平均の12,103万円を2,306万円上回っています。

区別にみると、最も多いのが宮前区(34,522万円)。次には、僅差で高津区(34,147万円)が続く、以下、麻生区(20,399万円)、川崎区(14,876万円)、中原区(10,928万円)、多摩区(10,425万円)、幸区(10,044万円)の順となっています。

繁華街別では、やはり小川町が一番多く119,780万円、第2位が鷺沼で34,522万円、第3位が武蔵溝ノ口で34,147万円となっています。逆に、最も少ないのは塚越の5,384万円で、1億円に達しない地域も16地域にのぼっています。

エ 従業者1人当たりの年間商品販売額

従業者1人当たりの年間商品販売額は、前回調査と比べて151万円減少の2,164万円となり、小売業平均の1,943万円を221万円上回りました。

区別にみると、最も高いのが宮前区の3,552万円、次が高津区の3,176万円、以下、川崎区2,372万円、幸区1,910万円、麻生区1,894万円、中原区1,800万円、多摩区1,669万円と、前回と同順位になりました。

繁華街別では、小川町が4,926万円と最も多く、他にも鷺沼(3,552万円)と武蔵溝ノ口(3,176万円)とで3,000万円を超える額となっています。一方、最も額が少ないのは桜本の1,015万円で、南河原1,114万円、百合丘1,282万円等と続いています。

オ 売場面積 1 m²当たりの年間商品販売額

売場面積 1 m²当たりの年間商品販売額の繁華街平均は、122 万円で、前回調査に比べて 9 万円減少しました。

区別では、最も多いのが高津区で 144 万円、次が幸区で 129 万円、以下、麻生区 126 万円、宮前区 125 万円、中原区 122 万円、川崎区 117 万円、多摩区 115 万円と続いています。

繁華街別では、最も額が多いのは、川崎地下街（アゼリア）の 222 万円となっています。これは、繁華街平均の約 1.8 倍という高い値であり、地下街という限られたスペースでの効率良い販売状況が見てとれます。また、逆に低い額となったのは、南河原 90 万円、東門前・出来野 97 万円、小川町 97 万円、登戸 99 万円等となっています。

表 8 繁華街の地域別販売効率等

区 別	繁 華 街 名	商店 1 店当たりの			従業者 1 人 当たりの年間 商品販売額	売場面積 1 m ² 当たりの年間 商品販売額
		従業者数	売場面積	年間商品販売額		
	小 売 業 平 均	人	m ²	万円	万円	万円
	繁 華 街 平 均	6.2	90.1	12,103	1,943	120
川 崎 区	区 計	6.7	118.7	14,409	2,164	122
	1 東田町	6.3	128.4	14,876	2,372	117
	2 川崎駅前本町	6.1	113.0	12,204	1,991	107
	3 川崎駅ビル（BE）	8.3	182.2	21,690	2,604	119
	4 小川町	6.0	70.8	11,537	1,937	162
	5 桜本	24.3	1,248.4	119,780	4,926	97
	6 川崎大師	5.9	43.6	6,022	1,015	142
	7 東門前・出来野	6.0	65.3	9,462	1,587	147
	8 浜町	4.3	74.8	7,472	1,727	97
	9 大島本通り	3.8	49.7	5,754	1,510	118
	10 浅田・小田	5.0	71.9	7,567	1,504	106
	11 川崎地下街（アゼリア）	3.7	54.3	6,100	1,637	110
	12 京町	6.4	65.0	14,433	2,260	222
幸 区	区 計	4.1	50.1	7,238	1,773	145
	13 南河原	5.3	74.6	10,044	1,910	129
	14 鹿島田	5.1	60.7	5,678	1,114	90
	15 夢見ヶ崎	7.4	124.2	20,947	2,846	166
	16 塚越	4.4	52.8	6,559	1,486	110
中 原 区	区 計	3.5	53.7	5,384	1,531	101
	17 新丸子	6.1	91.0	10,928	1,800	122
	18 武蔵小杉	4.3	54.2	6,658	1,537	126
	19 木月	9.5	165.9	21,334	2,243	130
	20 元住吉	5.1	80.9	7,887	1,544	100
	21 武蔵新城	6.4	92.2	11,286	1,768	124
	22 平間	6.4	94.4	11,244	1,753	121
高 津 区	23 武蔵溝ノ口	4.4	56.5	7,027	1,607	124
宮 前 区	24 鷺沼	10.8	239.2	34,147	3,176	144
多 摩 区	区 計	9.7	285.1	34,522	3,552	125
	25 登戸	6.2	87.9	10,425	1,669	115
	26 向ヶ丘遊園	6.3	92.4	9,771	1,551	99
	27 稲田堤	6.5	101.6	12,305	1,887	118
	28 生田	6.5	72.8	9,495	1,468	126
麻 生 区	区 計	5.4	70.1	7,746	1,447	110
	29 百合丘	10.8	161.3	20,399	1,894	126
	30 柿生	10.1	119.0	12,999	1,282	109
	31 新百合丘	8.3	140.5	15,253	1,840	109
		12.3	184.0	26,965	2,185	126

売場面積は、牛乳販売店、自動車小売業、畳小売業、建具小売業、ガソリンスタンド、新聞販売店及び無店舗販売事業所を除く